



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行 沢田 光 広
編集者 横内 俊 博
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2019.11.10 第1535号

拡大キャッチコピー

「1人で悩まず 国労へ相談。 みんなで楽しく がんばろう！」

組織拡大、労働条件の改善に全力

= 平和・国民生活を守る取り組みも強化 =

第75回定期地方大会 / 愛真館



=大会に来賓も含め約80人が参加した=

職場改善、施策検証など多くの発言
「中村祐幸、成田明議長団」で進行
大会は、13時に小林良宏執行副委員長挨拶で始まり、代議員30人中26人と地方本部役員の出席を確認し大会成立を宣言。議長に中村祐幸代議員(北上工務分会)、副議長に成田明代議員(青森施設分会)を選出、代表し中村議長から就任挨拶を受け進められた。

地方本部は、第75回定期地方大会を10月4日・5日に盛岡市つなぎ温泉の愛真館で開催。関係者約80人が参加し開催した。大会では、委託化の進む中での安全・安定輸送、エルダー社員、出向先、関連会社を含む職場の労働条件の改善、東労組瓦解の職場状況や組織拡大の取り組みなどについて10人が発言し討論が行われた。

長が協約・協定締結を提案、承認され、引き続き経過報告と2019年度の運動方針(案)の提案を行った。最後に浮中明選挙管理委員長(盛岡電気分会)から地方役員と地方委員の選挙告示が行われ1日目を終了した。

2019年は、統一地方選挙と参議院選挙が同じ年内に開かれる12年に一度の「選挙の年」であった。矢中町議選では、山崎道夫さん。岩手県議選では、花巻選挙区で木村幸弘さん。参議院選挙では、岩手選挙区の横沢たかのりさん。比例区においては吉田た

選された各議員の活躍に期待する。東日本大震災から8年半が過ぎた。山田線宮古釜石間、今年3月23日に三陸鉄道に経営移管され、久慈から盛までのリアス線としての営業を開始した。沿線住民や沿岸地域の支援という観点から、山田線盛岡宮古間は、八戸線、釜石線、大船渡線の安全で安定的な運行と沿岸地域への支援はJR東日本の社会的責任であり、使命と言え

代わる技術や機械化、仕事内容の変革等が盛り込まれているが、安全がしっかり担保出来るのかという不安は残る。労働条件についても低下していくのではないかと懸念がある。こうした職場環境は、多くの社員を不安にさせており、不満の声も多く聞かれています。貨物会社においても「新人事・賃金」制度が導入され、制度導入に対する不満や自身の評価に対する不安などが報告されている。会社に対しての不安・不満を解消するには、労働組合を強化していくこと、そのためには国労の組織を拡大する以外にない。

職場過半数代表者では、3職場で国労組合員が代表に選出され、選出されなかった職場でも国労組合員への支持が拡大している。私たちが職場で取り組んできたことに多くの社員が共鳴してくれている。不安や動揺のなかで仕事をせざるを得ない数多くの未加入社員に対し、私たち一人ひとりの思い「国労と一緒にがんばりましょう。国労に加入してください。」という強いメッセージを発信し続けよう。

私たちの運動課題は多岐にわたるが、「2019年度運動方針」の確立と、国労盛岡地方本部に結集する組合員・家族が一丸となって組織拡大をはじめとする闘いに全力をあげていこう。



100年に1度といわれている台風19号が日本列島を襲った。各地で洪水や土砂崩れ、河川の決壊が起き、インフラや交通にも大きな影響が出た。関東を流れる利根川も危険水位を超えたが、なんとか持ちこたえた。これについて群馬県選出の国會議員は「八ッ場ダムのおかげで氾濫が起きなかった。我々が目指してきた方向は正しかった」と得意げに述べている。そんな悠長なことは言っていられない。これを上回る規模の台風が襲うかもしれない。温暖化を止めることを真剣に考えなければならぬ。軍事費に予算を費やすより、水害対策等に回すべきである。▼鉄道にも被害が発生した。現在八戸線の復旧工事を進めているが、復旧期間についてJR本社と協力会社とでやりとりがあったと聞かされてきている。それは、盛岡支社と協力会社の間で協議し復旧期間を2ヶ月程度と見込んでプレス発表までしたが、それに対して本社は見込み以上の早期復旧を求めてきたという。協力会社は「下請け業者における人手不足で施工期間の短縮は難しい」とことを訴え、本社は「下請け業者を全国から募集させるなどして、早期復旧に向けた集中的な工事を」とし、結局、当初の施工期間が変わったと言われている。▼今本社は、一声で何でもできるという強気の姿勢になっている。この光景に若手社員は、「最近では、本社の一言で仕事が変わり変わる。人がいないのに仕事を増やしてくる。もう限界だ」と訴えている。私たちは、こうした若手の声を拾いあげ、繋ぎ合わせなければならない。そして、その先には、組織拡大があるはずである(横)

来賓・メッセージ
金田一文紀平和環境岩手県センター事務局長、佐藤浩之岩手県交通運輸協議会議長、小西和子社会民主党岩手県連合代表、斎藤信日本共産党岩手県支部長、砂金良昭東北労働金庫岩手県本部、齋藤健市こくみん共済coop岩手推進本部部長、佐藤淳一ハビネス共済理事、吉田和弘交運共済盛岡統

括事業部事業推進部長、大沼元国労東日本本部執行委員長、五十嵐敬国労東北協議会議長、国労盛岡地本議員団(裏面掲載)、松山剣司鉄道退職者の会盛岡地方連合会事務局長、北上洋子盛岡地方本部家族会会長

メッセージ 順不同
自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手地方本部、全水道盛岡水道労働組合、全林野関連労働組合岩手県協議会、東北労働金庫労働組合、岩手県支部、全労済労働組合、北海道・東北支部岩手分会、岩手県合同労働組合連合会、国労地方本部関係(秋田・仙台・新潟・高崎・水戸・東京・長野の各地方本)

メッセージ 順不同
自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手地方本部、全水道盛岡水道労働組合、全林野関連労働組合岩手県協議会、東北労働金庫労働組合、岩手県支部、全労済労働組合、北海道・東北支部岩手分会、岩手県合同労働組合連合会、国労地方本部関係(秋田・仙台・新潟・高崎・水戸・東京・長野の各地方本)

メッセージ 順不同
自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手地方本部、全水道盛岡水道労働組合、全林野関連労働組合岩手県協議会、東北労働金庫労働組合、岩手県支部、全労済労働組合、北海道・東北支部岩手分会、岩手県合同労働組合連合会、国労地方本部関係(秋田・仙台・新潟・高崎・水戸・東京・長野の各地方本)

メッセージ 順不同
自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手地方本部、全水道盛岡水道労働組合、全林野関連労働組合岩手県協議会、東北労働金庫労働組合、岩手県支部、全労済労働組合、北海道・東北支部岩手分会、岩手県合同労働組合連合会、国労地方本部関係(秋田・仙台・新潟・高崎・水戸・東京・長野の各地方本)

方針討論
職場の実態、組織の拡大や関連会社の実態などで議論
代議員・特別代議員10人が発言
方針討論では10人の代議員が発言した。要旨は次の通り。
◎佐藤英雄代議員 (一関運輸分会)
(二関運輸分会)



佐藤英雄代議員 (一関運輸分会)

(表面から続く) NSGで画像チェック入力、専任者だけでなく、安全・安定輸送に疑問だ。

▽認定線区の委託化、P会社に移行も、十分な説明がなく現場で戸惑いも起きている。出向者が退職すればプロパーが必要だ。地方交渉が大切だ。

◎木村新吾代議員

(青森駅連合分会) 津軽線ポイント注油、MRSに委託となっている。交渉し納得だが、特掃ポイント転換、社員の立ち合いがある。すべて委託と思うがどうか。

◎浮中明代議員

(盛岡電気分会) 電気部門の変革2022で平成採用者からも問題点を聞き交渉に臨んだ。3月から委託と言っていたが、6月時点でシステム未改修の所がある。P会社のメセの未設置箇所もあり足口も出ている。1年



工藤則彦特別代議員 (工務協議会代表)

を検証し問題点を地本にあげていきたい。

▽新幹線統括本部化で配属先が変化している。面談の希望通りならない社員もいる。技術センターが仙台管轄、不安がある。職場代表者選挙など接点を作ってほしい。

◎田村文男代議員

(盛岡駅連合分会) 30時間以上の残業する社員もいる。また、なかなか超勤申告のできない社員もおり、手当が付かない社員がいる。▽社員の不参で、取り扱いは二転三転。勤務証明の扱いについて疑問を感じている。

◎西野利行代議員

(盛岡運輸区分分会) 職場は250人前後の社員数で、東労組が8割、未加入が50人、残りが国労。組織拡大に向け、数人単位で交流会、情報を手渡し取り組んでいるが、時間が必要と思うが



松橋隆代議員 (八戸工務分会)

今後も続ける。

▽組織機構の在り方、車掌は、エルダー社員はすべて違う職場に出て純粋に減っていく。組織で検討してほしい。

◎高橋清光代議員

(青森運輸分会) 分会・地区協役員は現職の人と考えていたが、難しくなっている。組織の在り方も含め、意識ある人、動ける体制を作りたい。

◎松橋隆代議員

(八戸工務分会) MRSなどグループ会社のプロパー社員との交流は、グループ会社の労働条件改善の取り組みと合わせ、組織拡大



高橋清光代議員 (青森運輸分会)

が倒れている。エルダー社員も65歳前に辞めている。出向社員に業務が集中している。夜勤も多く65歳までは働かないと言っている。テムズも同様だ。

▽組織機構については、分会で話し合っていきたい。

◎大西信行代議員

(盛岡施設分会) 建築職場も盛岡のみとなり、足口が多く、忙しくなっている。釜石・八戸の大事案もある。会社には大卒も入社し資格を取らせるが、すぐ支社助役になるので図面を書く人がいない。

執行部による中間答弁

要旨は次の通り。 ○MRSなどグループ会社のプロパー社員との交流は、グループ会社の労働条件改善の取り組みと合わせ、組織拡大

選挙の取り組みへの謝辞と活動報告 - 議員団6人が参加 -



地方議員団の写真右から木村幸弘岩手県議員、千葉信吉一関市議員、山崎道夫矢野町議員、高橋伸二平泉町議員、斎藤憲雄前青森市議員が大会に参加(阿部一男花巻市議員は夕方から参加)した。今年4月9月施行された統一地方選挙の取り組みに対する謝辞と次期選挙への支援の要請や各議員の議会活動報告などを受けた。星敦子北上市議員、久保孝喜元岩手県議員は所用あり欠席。

2019年度 地方委員 12人を選出

2019年度地方委員には次の12人が選出された。

- ▽盛岡支部 8人
 - 近藤 信博 (盛岡駅連合分会)
 - 西野 利行 (盛岡運輸区分分会)
 - 中野 英彦 (盛岡施設分会)
 - 館川 幸也 (盛岡貨物分会)
 - 上村 義光 (一戸地域分会)
 - 高橋 敏文 (北上駅連合分会)
 - 佐藤 英雄 (一関運輸分会)
 - 宮崎 聡 (釜石地域分会)
- ▽青森支部 4人
 - 木村 新吾 (青森駅連合分会)
 - 横濱 幸徳 (青森施設分会)
 - 工藤 誠 (野辺地・浜地域分会)
 - 加藤 寿 (八戸貨物分会)

「分会情報」が 最優秀賞

大会では、2018年度の地方本部機関紙コンクールの表彰も行われた。

- ◎最優秀賞
 - 「分会情報」 (盛岡運輸区分分会)
 - 「電気もりもり」 (盛岡電気分会)
- ◎最優秀賞
 - 「分会情報」 (盛岡運輸区分分会)
- ◎可動橋
 - 青森駅連合分会
- ◎電気もりもり
 - 盛岡電気分会

沢田委員長はじめ 新役員9人を選出

小林・阿部・鈴木氏が退任



「写真左から小笠原、淡路、及川、巽岩、佐々木、沢田、菊池、横内の新役員」

今日大会は、地方役員の改選期であり、小林良宏・阿部一久執行副委員長、鈴木清正会計監査員が退任した。

- ▽執行委員長 沢田 光広
- ▽執行副委員長 佐々木政志
- ▽執行副委員長 巽岩 哲彦
- ▽書記長 菊池 要悦(専従)
- ▽執行委員 及川 孝
- ▽執行委員 横内 俊博
- ▽執行委員 小笠原勝豊
- ▽会計監査員 淡路 明則
- ▽会計監査員 沖田 司男



もう一人の青年・女性の 組織拡大に全力をあげよう

菊池書記長集約 (要旨)

「労働条件改善・権利確立、安全・安定輸送確立の闘い」 J R東日本は「時間軸」「スピード感」を強調し、矢張り早く施策を実施。その結果、職場のあり方、社員の働き方が変化している。JR貨物においても、「新人事・賃金制度」が導入された。恣意的な運用が行われないよう、点検を強めて行く。また、JR会社では、同じような事故が繰り返して発生しているが、背景には人手不足、技術力不足がある。私達は、次世代を担う職場における若手社員とともに、安心して働き続けられる職場作りを行わなければならぬ。

管という形で復旧した。しかし、沿線人口の減少等で、その前途は盤石なものではない。私達は、引き続き、JR東日本に対して、支線・BRTを活用した新幹線からの継続した送客を求めていく。今、環境問題やエネルギー問題により、「高速・大量輸送」に適した鉄道へのシフトが求められている。IGRいわて銀河鉄道・青い森鉄道は地域住民の足であると同時に本州と北海道を結ぶ物流の大動脈でもある。「総合交通政策」実現に向け、各県交通協力の場を通じ、私たち国労がその中心軸の一つになってい

かなければならない。 「組織強化・拡大の闘い」 J R東日本では、東労組瓦解で社員の7割が労組未加入者である。若手の中には、不平・不満を国労組合員に託す社員もいる。こうした声を私たちは丁寧に拾い上げなければならぬ。JR貨物においては新人事・賃金制度が導入された。恣意的な人事考課をさせないためにも、国労組合員の声を大きくしていかなければならない。また、グループ会社の労働条件改善は大事な取り組みである。プロパー社員との交流を行い、組織拡大の取り組みを強めて行きたい。本部はいわゆる「5年ビジョン」を策定した。次世代に国労運動を継承するために組織拡大を全体で確認したい。9月23日に開催した「第13回組織拡大対策会議」では東日本青年部の仲間を交えて意見交換を行った。私たちは、負わず、真剣に職場

の若手社員と向き合っていかなければならない。5年という時間を意識し、全組合員が「当事者意識」を持ち、「もう一人の青年、もう一人の女性」の拡大に全力を挙げよう。

「平和と民主主義を守る闘い」 安倍首相は、「新時代への改憲へ道筋をつける」とし、「戦争のできる国」から「戦争をしない国」へ大きく踏み出すと述べている。私たちの生活の基盤は平和であり、「生命と暮らし」を守ることにあり。私たちの労働実態・生活実態は政治と無関係ではない。職場を変えていくことが政治を変えていくことである。未組織の仲間を労働組合に組織し、職場や社会の矛盾について学習と議論をしていくことが大事である。来年は、北上市議員選挙と平泉町議員選挙が予定されている。組織内候補の勝利に向け、奮闘をしていく。